

令和8年8月25日

館林市立学校適正規模・適正配置 南地区検討委員会

第3回 議題資料

目次

1. 南地区における学校再編の方向性(案)について……2
2. 学校再編の組合せの検討にあたって ……3
3. 学校再編の組合せ(小学校) ……4～12
4. 学校再編の組合せ(中学校) ……13～15

■付属資料集

付属資料 1 各小中学校からの通学距離

付属資料 2 学校施設の状況

1 南地区における学校再編の方向性（案）について

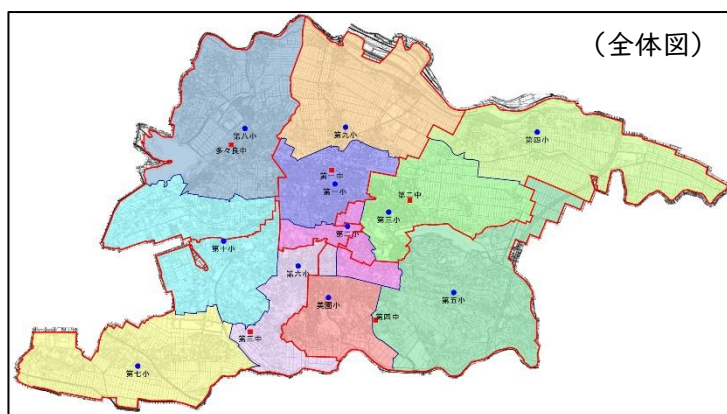
第2回検討委員会での意見等を踏まえ、南地区については次のような学校再編の方向性
とします。

（1）小学校の学校再編について

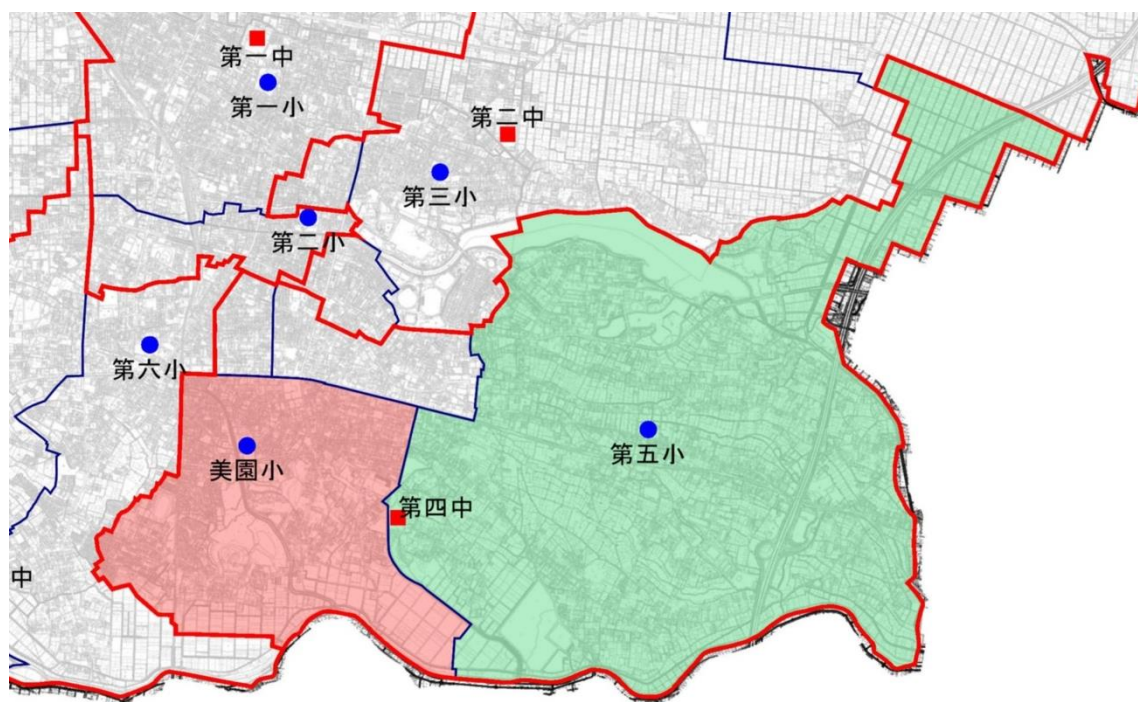
- ①小学校同士を統合して適正規模を維持する
- ②第四中学校区に含まれる他地区の小学校の学校区見直しについて協議が必要

（2）中学校の学校再編について

第四中学校は地域の実情を考慮し、他地区の中学校との統合について協議が必要



（南地区拡大図）



2 学校再編の組合せの検討にあたって

①はじめに小学校の組合せを検討します。

②次に中学校の組合せを検討します。

中学校の組合せについては、現行の中学校同士の
統合パターンについて検討することとします。

3 学校再編の組合せ（小学校）

■小学校同士の統合

パターン	小学校		RI9 規模	進学先
A	再編校	五小 + 美園小	×	四中
	南地区の2つの小学校の統合			
B	再編校	五小 + 美園小 + 二小 (四中学区)	○	四中
	南地区の2つの小学校と北地区の二小(四中学区)の統合			
C	再編校	五小 + 美園小 + 六小 (四中学区)	×	四中
	南地区の2つの小学校と西地区の六小(四中学区)の統合			
D	再編校	五小 + 美園小 + 二小 (四中学区) + 六小 (四中学区)	○	四中
	南地区の2つの小学校と北地区の二小(四中学区)と西地区の六小(四中学区)の統合			

3. 学校再編の組合せ（小学校）

パターンA

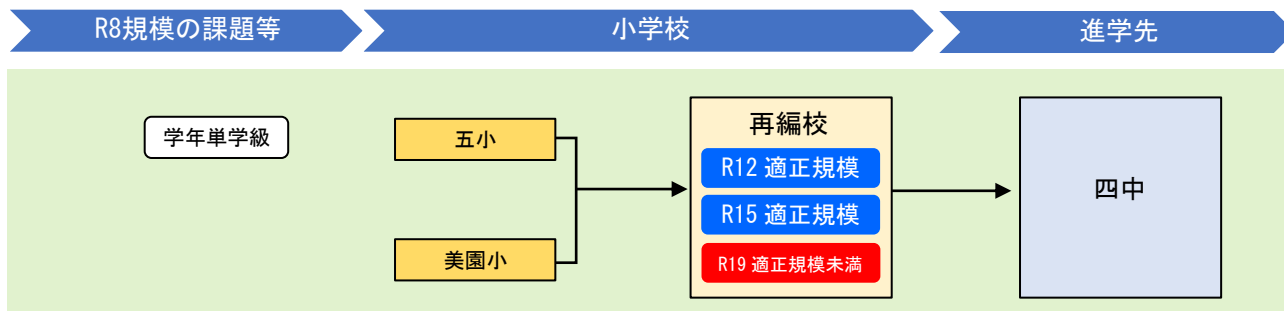
➤付属資料1:小中学校通学距離
➤付属資料2:学校施設の状況

■パターンの考え方

- ・現行の小学校同士を統合する

■再編方法

- ・五小と美園小を統合する（進学先：四中）



■小学校の児童数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
五小	239	10	196	7	176	6	161	6	152	6	144	6	136	6	128	6	121	6
美園小	312	12	233	11	216	10	198	8	186	7	175	7	165	7	155	6	146	6
再編校	—	—	429	16	392	15	359	13	338	13	319	13	301	13	283	12	267	11

※R12～R14は、小学校新入生予定数や分散進学割合を基に算出。R15以降は、R8～R14の増減率を基に算出。

※R8時点の特別支援学級数：五小（2）、美園小（5）

■校地の比較

再編校（五小、美園小）

五小	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数※1
	S51	12,464	3,635	20
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（16）を確保できる見込み ・特別支援学級数※3（7）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約 4.4km（分福町）			

美園小	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数※1
	H2	28,370	5,142	25
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（16）を確保できる見込み ・特別支援学級数※3（7）を確保できる見込み ・最長通学距離※4：約 5.1km（羽附旭町）			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値（学校適正配置推進室調べ）

※2 普通教室数は R12時点の再編校の学級数

※3 特別支援学級数は R8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各小学校の学区の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

【参考】（小学校再編後）中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
四中	—	—	281	9	265	9	237	9	232	8	227	8	202	7	197	7	165	6

シミュレーション結果

	適正規模※5			分散 進学	通学距離 （最長）	教室数の確保※6				小中 連携	他地区 との協議
	R12	R15	R19			五小	△	美小	○		
再編校	○	○	×	—	5.1km	五小	△	美小	○	可	不要

※5○：適正規模維持 ×：適正規模未満

※6○：普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△：普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×：普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

3. 学校再編の組合せ（小学校）

パターンB

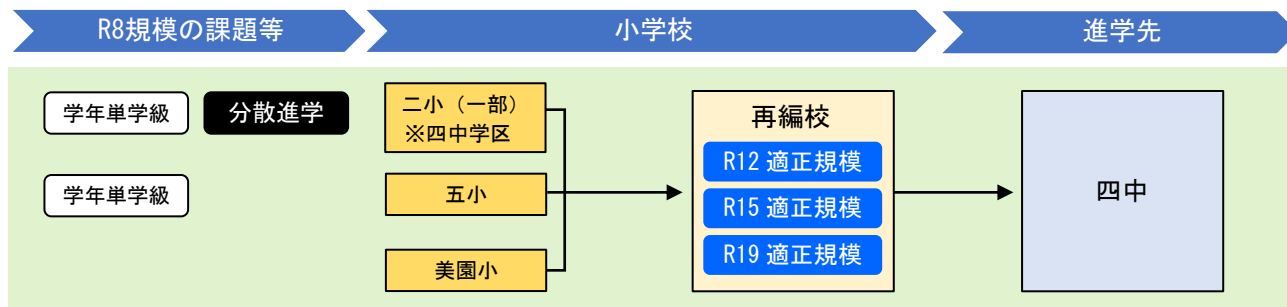
➤ 付属資料1: 小中学校通学距離
➤ 付属資料2: 学校施設の状況

■ パターンの考え方

- ・北地区の二小（四中学区）を南地区の小学校再編校へ就学する学区の見直しを行い、四中に進学することで分散進学の解消を図る

■ 再編方法

- ・二小（四中学区）、五小、美園小を統合する（進学先：四中）



※二小の一部（四中学区：松原二丁目、松原三丁目、緑町二丁目）

■ 小学校の児童数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
二小（一部）	-	-	63	-	62	-	64	-	63	-	62	-	61	-	60	-	58	-
五小	239	10	196	7	176	6	161	6	152	6	144	6	136	6	128	6	121	6
美園小	312	12	233	11	216	10	198	8	186	7	175	7	165	7	155	6	146	6
再編校	-	-	492	17	454	16	423	15	401	15	381	15	362	14	343	13	325	13

※R12～R14は、小学校新入生予定数や分散進学割合を基に算出。R15以降は、R8～R14の増減率を基に算出。

※R8時点の特別支援学級数：五小（2）、美園小（5）

■校地の比較

再編校（五小、美園小）

五小	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数※1
	S51	12,464	3,635	20
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（17）を確保できる見込み ・特別支援学級数※3（7）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約 4.4km（分福町）			

美園小	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数※1
	H2	28,370	5,142	25
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（17）を確保できる見込み ・特別支援学級数※3（7）を確保できる見込み ・最長通学距離※4：約 5.1km（羽附旭町）			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値（学校適正配置推進室調べ）

※2 普通教室数は R12時点の再編校の学級数

※3 特別支援学級数は R8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各小学校の学区の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

【参考】（小学校再編後）中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
四中	—	—	321	11	300	10	267	9	266	9	262	9	236	8	226	8	192	7

シミュレーション結果

	適正規模※5			分散進学	通学距離（最長）	教室数の確保※6				小中連携	他地区との協議
	R12	R15	R19			五小	△	美小	○		
再編校	○	○	○	—	5.1km	五小	△	美小	○	可	必要

※5○：適正規模維持 ×：適正規模未満

※6○：普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△：普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×：普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

3. 学校再編の組合せ（小学校）

パターンC

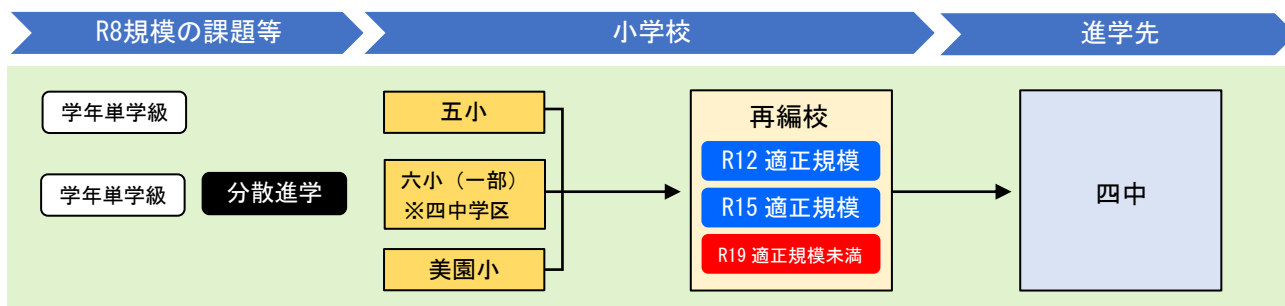
➤ 付属資料1: 小中学校通学距離
➤ 付属資料2: 学校施設の状況

■ パターンの考え方

- ・西地区の六小（四中学区）を南地区の小学校再編校へ就学する学区の見直しを行い、四中に進学することで分散進学を解消を図る

■ 再編方法

- ・五小、六小（四中学区）、美園小を統合する（進学先：四中）



※六小の一部（四中学区：緑町一丁目）

■ 小学校の児童数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
五小	239	10	196	7	176	6	161	6	152	6	144	6	136	6	128	6	121	6
六小（一部）	—	—	22	—	23	—	28	—	27	—	26	—	25	—	24	—	23	—
美園小	312	12	233	11	216	10	198	8	186	7	175	7	165	7	155	6	146	6
再編校	—	—	451	17	415	16	387	14	365	13	345	13	326	13	307	12	290	11

※R12～R14は、小学校新入生予定数や分散進学割合を基に算出。R15以降は、R8～R14の増減率を基に算出。

※R8時点の特別支援学級数：五小（2）、美園小（5）

■校地の比較

再編校（五小、美園小）

五小	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数※1
	S51	12,464	3,635	20
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（17）を確保できる見込み ・特別支援学級数※3（7）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約 4.4km（分福町）			

美園小	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数※1
	H2	28,370	5,142	25
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（17）を確保できる見込み ・特別支援学級数※3（7）を確保できる見込み ・最長通学距離※4：約 5.1km（羽附旭町）			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値（学校適正配置推進室調べ）

※2 普通教室数は R12時点の再編校の学級数

※3 特別支援学級数は R8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各小学校の学区の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

【参考】（小学校再編後）中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
四中	—	—	290	10	274	10	246	9	243	9	241	9	215	8	208	7	174	6

シミュレーション結果

	適正規模※5			分散進学	通学距離（最長）	教室数の確保※6				小中連携	他地区との協議
	R12	R15	R19			五小	△	美小	○		
再編校	○	○	×	—	5.1km	五小	△	美小	○	可	必要

※5○：適正規模維持 ×：適正規模未満

※6○：普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△：普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×：普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

3. 学校再編の組合せ（小学校） パターンD

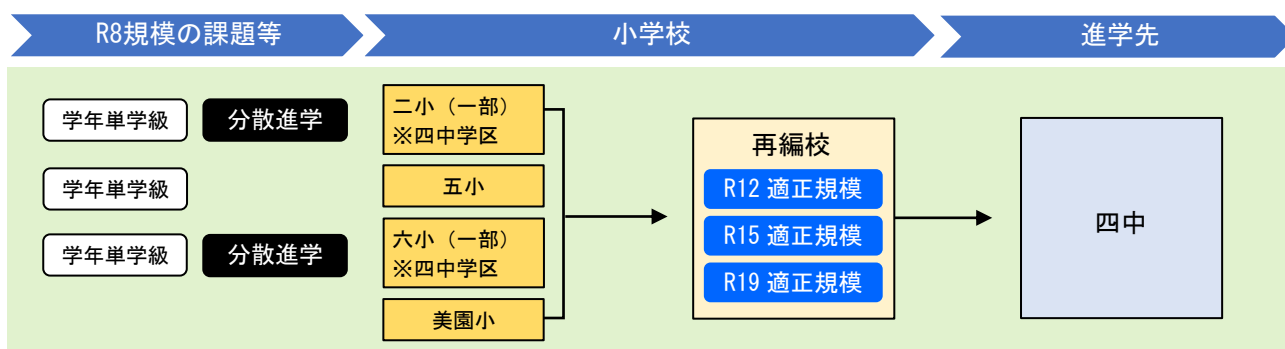
> 付属資料1: 小中学校通学距離
 > 付属資料2: 学校施設の状況

■ パターンの考え方

- ・北地区の二小（四中学区）を南地区の小学校再編校へ就学する学区の見直しを行い、四中に進学することによって分散進学を解消を図る
- ・西地区の六小（四中学区）を南地区の小学校再編校へ就学する学区の見直しを行い、四中に進学することによって分散進学を解消を図る

■ 再編方法

- ・二小（四中学区）、五小、六小（四中学区）、美園小を統合する（進学先：四中）



※二小の一部（四中学区：松原二丁目、松原三丁目、緑町二丁目）

※六小の一部（四中学区：緑町一丁目）

■ 小学校の児童数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
二小（一部）	—	—	63	—	62	—	64	—	63	—	62	—	61	—	60	—	58	—
五小	239	10	196	7	176	6	161	6	152	6	144	6	136	6	128	6	121	6
六小（一部）	—	—	22	—	23	—	28	—	27	—	26	—	25	—	24	—	23	—
美園小	312	12	233	11	216	10	198	8	186	7	175	7	165	7	155	6	146	6
再編校	—	—	514	18	477	17	451	17	428	16	407	15	387	14	367	13	348	13

※R12～R14は、小学校新入生予定数や分散進学割合を基に算出。R15以降は、R8～R14の増減率を基に算出。

※R8時点の特別支援学級数：五小（2）、美園小（5）

■校地の比較

再編校（五小、美園小）

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
五小	S51	12,464	3,635	20
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（18）を確保できる見込み ・特別支援学級数※3（7）の確保に課題がある ・最長通学距離※4：約 4.4km（分福町）			

	建築年度	敷地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	教室数 ※1
美園小	H2	28,370	5,142	25
	校地とする場合			
	・普通教室数※2（18）を確保できる見込み ・特別支援学級数※3（7）を確保できる見込み ・最長通学距離※4：約 5.1km（羽附旭町）			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値（学校適正配置推進室調べ）

※2 普通教室数は R12時点の再編校の学級数

※3 特別支援学級数は R8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各小学校の学区の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

【参考】（小学校再編後）中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
四中	—	—	330	11	309	10	276	9	277	9	276	9	249	8	237	8	201	7

シミュレーション結果

	適正規模※5			分散 進学	通学距離 （最長）	教室数の確保※6				小中 連携	他地区 との協議
	R12	R15	R19			五小	△	美小	○		
再編校	○	○	○	—	5.1km	五小	△	美小	○	可	必要

※5○：適正規模維持 ×：適正規模未滿

※6○：普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△：普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×：普通教室数を確保するために改修等の措置が必要

4 学校再編の組合せ（中学校）

■地域性を考慮し、他地区と統合

パターン	中学校			R19 規模
E	現行の四中構成小学校	⇒	四中 + 三中	○
	現行の三中構成小学校			
	現行の中学校を基にした四中と三中の統合			

4. 学校再編の組合せ（中学校）

パターンE

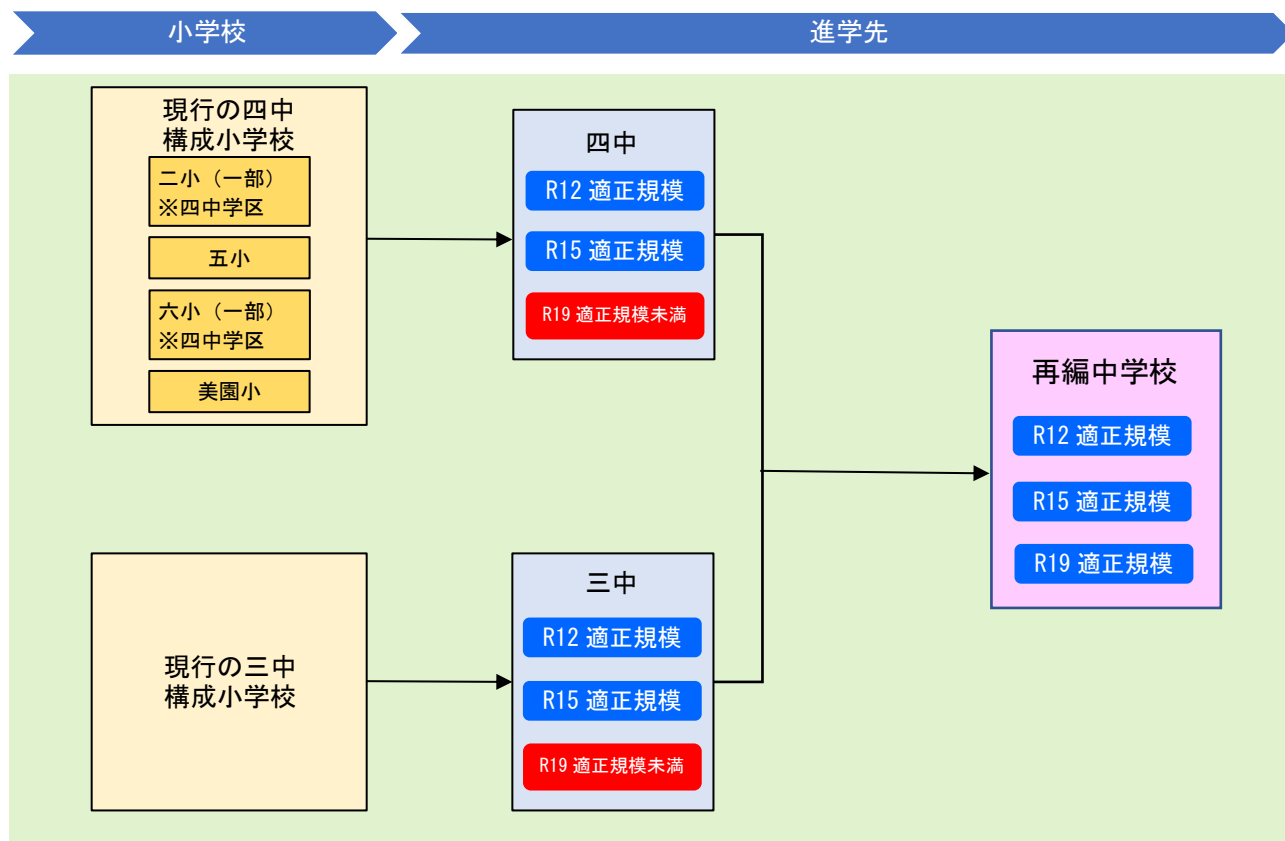
> 付属資料1: 小中学校通学距離
 > 付属資料2: 学校施設の状況

■ パターンの考え方

- ・地域性を考慮した、他地区（西地区の三中）の中学校同士の統合

■ 再編方法

- ・四中と三中を統合する



■ 中学校の生徒数・学級数の推計

学校名	R8		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
四中	—	—	330	11	309	10	276	9	277	9	276	9	249	8	237	8	201	7
三中	—	—	307	10	284	10	257	9	257	9	260	9	249	8	222	7	204	6
再編中学校	—	—	637	20	593	19	533	17	534	17	536	17	498	16	459	15	405	13

※R8時点の特別支援学級数: 四中(4)、三中(2)

■校地の比較(四中、三中)

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
四中	S59	59,552	5,455	22
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(20)を確保できる見込み ・特別支援学級数※3(6)の確保に課題がある ・最長通学距離※4:約 8.6km(野辺町)			

	建築年度	敷地面積(㎡)	校舎面積(㎡)	教室数 ※1
三中	S44	28,841	5,090	23
	校地とする場合			
	・普通教室数※2(20)を確保できる見込み ・特別支援学級数※3(6)の確保に課題がある ・最長通学距離※4:約 6.8km(羽附旭町)			

※1 教室数は普通教室として使用可能な数を積算した参考値(学校適正配置推進室調べ)

※2 普通教室数はR12時点の再編中学校の学級数

※3 特別支援学級数はR8時点の各校学級数の合計

※4 最長通学距離は、各中学校の学区の最も遠い地点までの道のりを測定した参考値

シミュレーション結果

	適正規模※5			通学距離 (最長)	教室数の確保※6				小中 連携	他地区 との協議
	R12	R15	R19		四中	△	三中	△		
再編中学校	○	○	○	8.6km	四中	△	三中	△	可	必要

※5○:適正規模維持 ×:適正規模未満

※6○:普通教室数と特別支援学級数の教室数を確保できる

△:普通教室数は確保できるが、特別支援学級数を確保するために改修等の措置が必要

×:普通教室数を確保するために改修等の措置が必要